

コレクション展 2017-II かけ  
**コレクション・ハイライト+特集展示「光ノ形/光ノ景」**  
 2017年6月3日(土)～9月10日(日)

このたび当館のコレクションを紹介する展覧会として、コレクション展 2017-II を開催します。本展は「光ノ形/光ノ景」と題した前半の特集展示と、当館コレクションから優品を選りすぐった後半の「コレクション・ハイライト」により構成されます。

◎特集「光ノ形/光ノ景」

特集「光ノ形/光ノ景」では、光にまつわる表現を3つの視点からひもときます。最初の「光ノ形」では、太陽や月、虹、電灯など、さまざまな種類の光を取り上げます。光が集まってできたかたち、あるいは光を放つかたちが現代美術の中でどのように表現されているのかを辿ってみます。

次の「光ノ景」では、光景、つまり光が広がって生まれる景色を見てみます。ときに色鮮やかに、ときに茫洋と広がる光は見る人の気持ちを癒しますが、しかし同時に私たちは、そのどこかに暗い影の気配をも感じ取ってしまいます。それは「景」という文字が訓読みでは「かげ」と読み、光を意味するとともに影にも通じる点に重なるでしょう。

最後が「影=光」の視点です。特にここ広島において強い光は消えない影を想起させます。当館から作家に「ヒロシマ」をテーマに制作を呼びかけ蒐集した制作委託の作品を含めて紹介し、絶望ではなく希望や再生へと想いをつなげていきたいと思えます。影を消し去ろうとするのではなく、影とともにある光のうつくしさを知り、影を万遍なく散らしながら未来を生き抜く方法を考えてみましょう。また、同時期に開催する特別展「村野藤吾の建築—世界平和記念聖堂を起点に」の関連展示として、丹下健三が設計した平和記念公園の建築模型と、大高正人が設計した広島市基町団地の建築模型を復興の象徴、もうひとつの「光」として出品します。

【出品作家】(展示順・予定)

◎特集「光ノ形/光ノ景」: 豊嘸、福田美蘭、奈良美智、恩地孝四郎、駒井哲郎、池田満寿夫、吉村益信、オノテラユキ、細江英公、アルノルド・ポモドーロ、大岩オスカル、小林孝亘、宇佐美圭司、杉本博司、米田知子、加納光於、石内都、河口龍夫、岡部昌生、清水九兵衛、上田薫、菊畑茂久馬、中村一美、松本英一郎、高松次郎、村上友晴、柳幸典、丹下健三、大高正人

◎コレクション・ハイライト: マグダレーナ・アヴァカノヴィッチ、イヴ・クライン、クリスト、マルセル・デュシャン、ホルスト・アンテス、クルト・シュヴィッターズ、デイヴィッド・ナッシュ、アルベルト・ジャコメッティ、クリスチャン・ボルタンスキー、ジャン・アルプ、クロード・ヴィアラ

開催概要

【会期】 2017年6月3日(土)～9月10日(日)  
 【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は16:30まで  
 【休館日】 月曜日(7月17日は除く)、7月18日(火)  
 【観覧料】 一般 370(280)円、大学生 270(210)円、  
 高校生・65歳以上 170(130)円、中学生以下無料  
 ※( )内は30人以上の団体料金

広島市現代美術館(学芸担当:竹口 広報担当:後藤、鈴木)  
 〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1  
 TEL/ 082-264-1121(代表) FAX/ 082-264-1198  
 E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



小林孝亘  
 《GATE》1997-98



オノテラユキ  
 《真珠のつくり方 No.20》2000



岡部昌生  
 《THE DARK FACE OF THE LIGHT- THE PLATFORM OF THE OLD UJINA STATION HIROSHIMA 1894/1945/2002》2002



クロード・ヴィアラ  
 《無題》1979-80